

# 貯金で国際貢献を

早瀬小夜子 59 主婦

(倉敷市黒崎)

郵便局では十月六日を「国際ボランティア貯金の日」として国際協力の輪が広がっている。

私は平成六年十一月に加入し、郵便局の貯金通帳に「国際ボランティア貯金」と書いてある。加入したきっかけは、いつも見る新聞やテレビの映像だった。

民族紛争などでの栄養失調の赤ちゃん、目だけキョロキョロした元気のない表情、不潔なハエが顔にまとまっている様子など、無表情の母親の姿に「私に何かできることはないだろうか、世界の子どもたちに笑いの声が欲しい、生まれたい子供たちみんなが幸せになればよい」と思っていた。

そんな時、近くの郵便局の窓口で国際ボランティア貯金のことを聞いた。尋ねると分からず、ボランティアに教えてくれた。

ボランティア貯金とはいつもわが家の通常貯金は本当に金額が。その中から一年に一度だけ取る利率の10%を寄付金とするもので、通帳欄の印字1回には「寄付金」あるいは「おこまこと」との言葉が添えられる。

その後、ボランティア通信を見たり、NPO本部を持つAMDAが載っている医療関係者の皆々と「活躍を」強く思った。

一人の主婦ができる国際貢献は、国際ボランティア貯金で金額の寄付をするだけだ。今、加入者が二千万人にも増えていると知り、私もしたかなと、いつも続かずにいる。もうすぐ、おこまことという人の理解を得る、力強い大輪になることを願っている。